

## 「私たちの組曲の再創造」

日時 令和7年11月7日（金）5校時  
場所 各教室  
学年 第2学年109名（男子61名、女子48名）  
第3学年76名（男子33名、女子41名）

## 本質的な問い・単元を貫く問い

本質的な問い (何度も問い直され答えが更新され続ける問い)	なぜ、人は地域の文化を受け継ぎ、未来へつなごうとするのだろうか。
単元を貫く問い (単元を通して考えを深めていく問い)	なぜ、今、私たちは『筆の都 くまの』を受け継ぎ、どのように表現していくのだろうか。

## 単元について

平成15年度より取り組んできた学校文化である組曲「筆の都 くまの」は、熊野に伝わる民謡や踊りをもとに、和楽器・吹奏楽・書道・舞踊を融合させた地域文化活動であり、地域との強いつながりを育む重要な実践である。しかし近年では、活動が形として受け継がれる一方で、その背景にある地域とのつながりや込められた思いを十分に意識できていない状況が見られる。

そこで本単元では、組曲「筆の都 くまの」を先輩たちから受け継ぐ意味を問い直し、「なぜこの組曲を次代に残したいのか」「自分たちはどのような想いを込めたいのか」といったテーマを探究することで、地域文化を主体的に継承し、新たな価値を創造する学びを目指す。

生徒は、パートごとに組曲に関わる地域文化や表現の要素について調査・探究を行い、地域の人々や資料とのかかわりを通じて、その背景にある歴史や意図を再発見する。また、表現活動においては、演出方法や表現手段の工夫に選択肢を持たせ、自分たちの意志で創意工夫を重ねながら表現を構築していくことを重視する。自分たちの考えや表現を仲間と共有し、対話を通じて異なる視点を取り入れながら、表現を磨き上げていくプロセスを大切にす。

そして、この活動を再び「自分ごと」として捉え直し、探究の過程を通して組曲の意味や価値を再発見するとともに、自分たちの言葉と表現で新たに創造・発信することを目指す。こうした学びを通して、地域文化を持続可能なものとして未来へとつなぐ意識を高め、地域の一員としての自覚を育むことをねらいとする。

## 生徒の実態

次の表は、本校で年3回行われる生徒質問紙において、本校で育成する資質・能力および総合的な学習の時間に関わる項目について2・3学年の生徒の回答を抜粋したものである。

【令和7年度5月実施 141名(上段2年78人、下段3年63人)回答】

	質問項目	肯定的回答 (%)		否定的回答 (%)		肯定的回答 (%)	
		よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない		
①	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	28.2	62.8	7.6	1.2	91.0	89.3
		36.5	50.7	12.6	0	87.3	
②	自分の住んでいる地域のことが好きです。	26.9	65.3	5.1	2.5	92.3	88.6
		34.9	49.2	12.6	3.1	84.1	
③	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思います。	19.2	60.2	17.9	2.5	79.5	81.5
		25.3	58.7	12.6	3.1	84.1	
④	地域や子供会の行事に参加しています。	17.9	37.1	32.0	12.8	55.1	55.3
		15.8	39.6	31.7	12.6	55.6	
⑤	自分で考えたことを、相手にわかりやすく伝えていると思います。	23.0	60.2	14.1	2.5	83.3	81.5
		26.9	52.3	19.0	1.5	79.4	

地域に対して肯定的な感情をもつ生徒が多く、特に2年生では「①総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」の肯定的回答が91%、「②地域のことが好き」の肯定的回答が92.3%だった。昨年度の6月の段階では同じ質問項目がそれぞれ①38.4%、②87.9%であったことを踏まえると、明らかに上昇している。この背景には、1年次に地域課題の探究活動に取り組み、地域との接点を実際に持つ経験を積んだことがあると考えられる。こうした経験が、生徒の地域に対する肯定的な感情や主体的な探究意識の向上に寄与したことがうかがえる。このことは、地域と関わる機会を学習の中に組み込むことが、生徒の意識を高める上で有効であることを示している。この成果を2年生だけの経験にとどめず、全学年の学びに活かす必要がある。特に、地域との接点を意図的に設計することで、3年生にとっても探究の実感を伴う学習を実現し、地域とのつながりを深める契機とすることが期待される。

## 単元の指導

この単元の指導に当たっては、次の4点に留意する。

### ① 探究と対話を重視した指導

本校の生徒は、第2学年を中心に、「課題を立て、情報を集め、整理・発表する」などの探究的な学習活動に取り組もうとする姿勢が育ってきている。そのため、教師は一方向的に指導するのではなく、問いかけや対話を通じて生徒の思考を深め、地域文化や表現活動を多面的に捉えられるように支援する。特に「課題の設定」や「情報の収集」の段階では、柔軟な助言や問い返しを行い、生徒自身が探究の方向性を主体的に見いだせるよう促す。

### ② 探究の成果を生かした表現活動

本単元では、組曲「筆の都 くまの」を単なる受け継ぐ対象ではなく、「自分たちがつくるもの」として捉え直すことを重視する。生徒が探究を通して得た気づきや考えを、音や踊り、書くといった表現活動に反映し、地域へ発信する過程そのものを学びとして位置づける。探究と表現が往還することで、生徒一人ひとりが表現の意味を自覚できるようにする。

### ③ 地域との接点を意図的に設定すること

生徒は地域への関心や意欲をもっている一方で、実際に地域と関わる機会が限られている。そこで、地域の人々に自分たちの活動を見てもらい、助言や感想を得る機会を単元の中に意図的に組み込む。地域との接点を持つことで、探究が実社会と結びつき、生徒自身の学びの意味がより明確になるようにする。

### ④ 社会貢献の意識を行動につなげる支援

「地域や社会をよくするために何かしたい」と考える生徒は学年が上がるにつれて増えており、この意識を学習活動の中で実際の行動へとつなげることが重要である。教師は、生徒の「表現したい思い」に寄り添いながら、仲間との協働や地域からのフィードバックをいかして表現を磨かせる。こうした経験を重ねることで、生徒は地域文化を担う一員としての自覚を深め、自らの学びを社会に生かす力を育んでいく。

## 単元の目標

学校文化である組曲「筆の都 くまの」を再創造・発信する活動を通して、学校活性化のための取組が地域の新しい価値の創造につながることを理解し、持続可能な視点から熊野町の文化及び学校文化の在り方について考えるとともに、伝統や地域の良さを大切にしながら生活していくことができるようにする。

## 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 学校活性化のための取組が、地域の新しい価値の創造につながるということを理解している。 ② 収集したい情報に合わせて、適切な方法で効率的に情報を収集している。 ③ 地域を大切にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさや人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	① 自分たちを取り巻く地域や学校の複雑な問題状況の中から課題を設定し、解決に向けた取組を見通しをもって計画している。 ② 自分の目的や意図に合った方法を選択して情報を収集し、種類に合わせて類別しながら情報を蓄積している。 ③ 収集した情報を取捨選択したり、視点を定めて分析したりしながら、解決に向けて取り組んでいる。 ④ 多様な考えを想定しながら、相手を説得できるように、表現を工夫して分かりやすく伝えている。	① 探究活動を通して、自分のよさや他者のよさを生かしながら学び合おうとしている。 ② 地域や校内での様々な学習活動によって、様々な関わりができた方々や学校全体と協働し、進んで取り組もうとする。 ③ 地域や学校全体との関わりの中で、地域や学校にとって必要なことと自分たちにできることを検討し、自分たちにできることを他者と協働し、実践に移そうとする。

## 指導と評価の計画

(全45時間)

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	評 価			
		知	思	態	
1 義「想 しよう」 (10)を 再定	・パートごとにこれまで続いてきた組曲の魅力と課題を見いだす。 ・魅力と課題から23代をよりよいものにするための課題を設定する。		①		・スプレッドシート ・魅力課題分析シート ・行動観察 ・記述分析
	・町誌を調べたり、地域の人にインタビューしたりして、情報を集める。	②			・行動観察 ・記述分析
	・調査活動によって得た情報をもとに、熊野町の伝統文化と組曲が関連していることについて		③		・行動観察 ・記述分析

	<ul style="list-style-type: none"> <li>整理する。</li> <li>自分たちのパートに「どんな熊野を込めたいか」を整理・分析する。</li> </ul>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>整理した情報を各パートや組曲実行委員会等で検討し、「組曲に込めたい思い」をまとめる。視点①組曲や各パートの表現は“誰”に“どんな思い”を伝えるものなのか。</li> <li>視点②それを“どのように”伝えると効果的なのか。</li> </ul>		④		<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>記述分析</li> </ul>	
2 「23代」 を創ろう (24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1サイクル目でまとめた思いをもとに、パートごとに表現活動にどのように組み込むか課題として設定するとともに、見通しをもって計画を立てる。</li> </ul>		①		<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>記述分析(個人振り返りシート)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に練習を行いながら、小グループで協議したり練習から得た感覚的な情報を自己の変化に着目して記録したりする。</li> <li>思いをもとに、調査したり情報を収集したりする。</li> </ul>		②		<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>記述分析(相互フィードバックシート、個人振り返りシート)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録したことやアンケート結果などを整理・分析し、各パートの提案や視点、思いをまとめる。</li> </ul>			①	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>記述分析(個人振り返りシート)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営協議会にプレ発表を行い、提案や視点、思いに基づいた意見や助言、感想をもらう。</li> </ul>		④		<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>記述分析(個人振り返りシート)</li> <li>スライド資料や発言内容</li> </ul>	
3 地域の 発表しよう の方 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営協議会からの意見や助言、感想を踏まえて、各パートにおける表現をブラッシュアップするための計画を立てる。</li> <li>文化祭での披露に向けて、どのような形で思いを込めたのか発表するための計画を立てる。</li> <li>協議しながら改善を行う。</li> </ul>				③	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>記述分析(個人振り返りシート)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭で披露・発表する。</li> <li>単元全体を振り返って、個人の振り返りをワークシートに記述する。</li> </ul>		①		<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>記述分析(個人振り返りシート)</li> </ul>	
4 学びを 振り返ろう (3) (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えの変化を振り返る。</li> <li>地域とのつながりを見つめる。</li> <li>24代目に向けて提案する。</li> </ul>		③		<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察、発言内容</li> <li>記述分析(個人振り返りシート)</li> </ul>	

### 本時の学習（45 / 45時間）

(1) 本時の目標

組曲「筆の都 くまの」での学習や表現をふりかえり、自分たちの思いの変化を自覚するとともに、次の代(24代目)に向けて自分の言葉で発信することができるようにする。

(2) 本時の評価規準及びルーブリック (ア③探究の良さ)

A	B	C
地域を大切にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさや人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると気づき、自分の言葉で説明できている。	地域を大切にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさや人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	Bを満たしていない。

(3) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て (◆)	評価規準 (評価方法)
<b>1 導入 (5分)</b>		
<p>○前時の振り返りを確認する。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	<p>◇「24代目が来年、組曲をつくるとしたら何を大切にしてほしいのか」問いかける。</p> <p>◇生徒に「次の代が今回の協議をもとに活動を進める」という意識をもたせ、活動の重要性を伝える。</p> <p>探究で得た気づきをもとに、24代目に提案しよう。</p>	
<b>2 展開1 (15分)</b>		
<p>○小グループで「23代目の提案」を協議する。</p>	<p>◇次の代の視点を意識させる。</p> <p>◆補助発問を行う。 (「自分たちが組曲をつくっていく中で大事だったものは?」「自分の変化と地域とのつながりから得たものは?」)。</p>	
<b>3 展開2 (25分)</b>		
<p>○提案タイトル「○○を大切に する組曲に」、提案理由(自分たちの体験・変化)、根拠(活動で得た気づき・データ・地域の人の言葉)を整理し、発表準備をする。</p> <p>○各グループが作成した提案内容を簡単に発表し、全体でフィードバックを行う。</p>	<p>◇資料の構成が分かりやすくなるよう指導する。(例:「見出しをつけて整理」「写真や図を入れる」)。</p> <p>◆次の代が実際に利用する場面を想定したアドバイスを行う。</p> <p>◇提案が次の代にとって具体的で実行可能か、資料が明確でわかりやすいかを確認する。</p> <p>◆他グループの良い点を共有する。</p>	
<p>【「概ね満足できる」状況 (B) と判断する根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが参加したパートの表現活動をふりかえり、仲間と対話する中で活動の工夫点や課題を見出し、それに対して改善案を提案としてまとめていた。</li> <li>提案において、自分の意見だけでなく、グループで出た多様な視点を取り入れながら、根拠や理由をつけて発表していた。</li> <li>組曲に対する愛着をもっており、『もっとよくできる』という前向きな意欲から次の代に向けて提案を表現していた。</li> </ul> <p>〈提案の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現の工夫に関する提案 「意味を考えて表現する組曲へ」ただ踊る・歌うだけでなく、動きや声に込める意味を理解して練習する。</li> <li>探究・調査活動に関する提案 「地域の人にもっと学ぼう」ネットや資料だけでなく、地域の方に直接話を聞く機会を増やしてほしい。 「組曲と地域の歴史をもっとつなげよう」</li> <li>地域との関わり・継承に関する提案 「地域と一緒に作る組曲へ」練習の途中で地域の方に見てもらい、意見やアドバイスをもらう場をつくる。</li> <li>学びの姿勢・チームづくりに関する提案 「一人ひとりが主役になれる組曲へ」役割を固定せず、全員が関わりを実感できる工夫をしてほしい。</li> </ul>		

#### 4 まとめ（5分）

○振り返りを記入する。

- ◇ねらいに対して本時の授業で学習したことを振り返りに書かせる。
- ◇「この資料が未来の活動にどう活かされていくか」を具体的に想像させる。
- ◆記入できた生徒に発表させる。

ア③（記述、発言、提案資料、行動観察）

（予想する生徒のまとめ）

- ・最初は組曲を「学校行事のひとつ」としか思っていなかったけど、調べていくうちに、地域の人々の努力や願いが込められていることを知り、考え方が変わった。
- ・自分たちのパートでどう熊野の思いを表すかを考える中で、仲間と意見を出し合うことの大切さを学んだ。
- ・発表を通して、「自分も地域の一員なんだ」という気持ちが強くなった。
- ・探究を通して、自分たちが地域の歴史の“つづき”を生きていると感じた。
- ・熊野の人たちが守ってきた文化を、自分たちも表現を通して次に伝えたい。
- ・24代目には「意味を込めて歌う」ことを大事にしてほしい。
- ・この活動を通して、熊野の魅力を外に発信できるような大人になりたいと思った。